

YAMABISHIの温室効果ガス排出削減目標が

「Science Based Targets (SBT) イニシアチブ」の認定を取得

YAMABISHIの蓄電システムで温室効果ガスを削減します！

株式会社 YAMABISHI (CEO：蓮池 一憲)は、2030 年に向けて当社で策定した温室効果ガス削減目標が科学的根拠に基づいた目標であるとして「 Science Based Targets (SBT)イニシアチブ (※1) 」より認定を取得しました。脱炭素ソリューションを提供する企業として、自社の製品・ノウハウにて目標達成を目指します。



■SBT (Science Based Targets) とは

SBT は企業が環境問題への取り組みを示す目標の 1 つです。地球の気温上昇を産業革命前の気温と比べて 2℃未満に維持するために必要な脱炭素化レベルがパリ協定にて定められました。この「脱炭素化レベル」と「企業による温室効果ガスの排出削減目標」が一致していることを科学的根拠に基づいて検証・認定している国際機関が SBT イニシアチブです。事業者自らが直接排出する温室効果ガスだけでなく、事業活動に関するあらゆる排出を削減対象として企業への温室効果ガス排出削減を求めています。

Scope 1	事業者自らによる温室効果ガスの直接排出
Scope 2	他社から供給された電気、熱、蒸気の使用に伴う間接排出
Scope 3	Scope 1, 2 以外の間接排出 (※2)

※1：Science Based Targets イニシアチブ

WWF、CDP、世界資源研究所 (WRI)、国連グローバル・コンパクトによる共同イニシアチブ。

※2：Scope3

中小企業向け SBT の場合、Scope3 における特定の基準値はない。

▼SBTに関する詳細はこちらから(環境省ホームページより)▼

https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/files/SBT_gaiyou_20230301.pdf

■YAMABISHI の目標

当社は 2030 年までに、**50%の温室効果ガス排出削減**を目指します(2018 年実績比)。

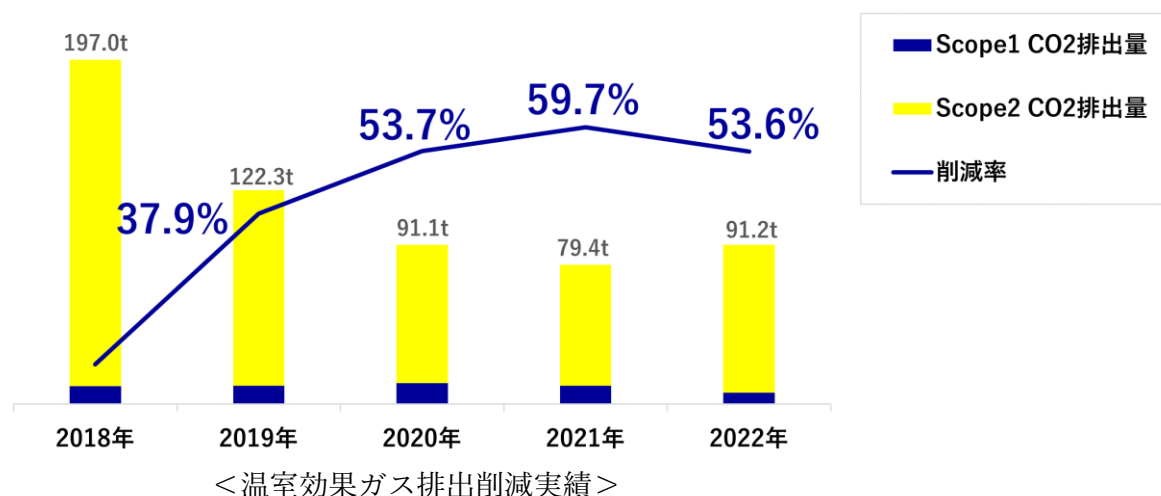
	2018 年 実績(基準年)	2030 年 目標
温室効果ガス 排出量	197.1 t	98.5 t

また、各 Scope において、以下の削減方針を掲げています。

Scope 1	社用車のガソリン使用量削減に努める。
Scope 2	以下拠点にて自社製品の蓄電システムを使用し、自家消費を推進。 ・海老名工場（生産拠点） ・大阪 ZEO（営業拠点、ZEO：Zero Energy Office の略称） ・名古屋 Technical Center（技術拠点）

Scope2 では、各拠点に自社製品の蓄電システムを設置・運用することで、購入する電気を削減します。その中でもテナントビルの大阪 ZEO は、オーナー様の許可を得て、蓄電システムと太陽光パネルを設置し、購入する電気を削減している特徴的な拠点となります。

■温室効果ガス排出削減状況



2020 年時点で温室効果ガス排出量は 91.1t と目標値の 98.5t を下回り、約 53% の削減を実現しています。2020 年以降も継続的に目標を達成しており、引き続き削減に努めてまいります。今後の削減実績につきましても、当社ホームページにて随時公開いたします。

■リチウムイオン蓄電システム「YRW シリーズ」について

YRW シリーズは、自社開発のパワコンとリチウムイオン蓄電池で構成された、節電・再エネ活用・停電時の電源確保に貢献する自家消費型太陽光発電システムです。太陽光発電のみでは天候に左右されるため、必要な時に発電できない場合もありますが、蓄電池を備えた太陽光発電システムであれば、発電した電力を蓄えることができるため、必要な時にいつでも電気を活用することができます。YRW シリーズは太陽光発電分を優先して使用するフロー設計のため、買電を抑え、再生可能エネルギーでの設備稼働を促進します。

また、YRW シリーズには特許を取得した自家消費を最適化する制御 SmartSC(Smart Self-Consumption) が標準搭載機能として備わっております。太陽光の発電余剰予測と構内設備消費予測の 2 点を突き合わせ、日々異なる天気と電力使用状況に応じた制御を行います。



<リチウムイオン蓄電システム YRW シリーズ>

2020 年以降、温室効果ガス排出削減率 50%以上を継続的に実現している当社では、上記システムと制御を活用し、自家消費を行っております。

持続可能な社会のために脱炭素化が求められている昨今、再生可能エネルギーの導入と拡大が益々重要視されています。蓄電システムのような自家消費を推進する製品の活用が SBT 目標達成を後押しし、脱炭素社会の実現に貢献するでしょう。

当社は脱炭素化を目指すだけでなく、電源メーカーとして技術を活かして脱炭素ソリューションを提供することで、引き続き現代社会の抱える環境問題の解決に貢献してまいります。



＜海老名工場に設置されている太陽光パネルと自家消費システム＞

▼リチウムイオン蓄電システム「YRW シリーズ」の概要はこちらから▼

https://www.yamabishi.co.jp/products/back_yrw/index.html

▼自家消費を最適化する「SmartSC」の概要はこちらから▼

<https://www.yamabishi.co.jp/ad/smartsc/>

◆弊社海老名工場で稼働中の自家消費システム 概要

型式 : YRW-2750-100SH-15PV-426M2-100STW

電圧 : 三相 3 線 200V 系

出力 : 100kW(連系)／ 100kVA(自立)

蓄電池 : 公称容量 426kWh(実効容量 383kWh)

太陽光 : 多結晶 162kW

◆株式会社 YAMABISHI 会社概要

商号 : 株式会社 YAMABISHI(<https://www.yamabishi.co.jp>)

代表者 : CEO 蓮池 一憲

本社所在地 : 東京都大田区大森北 2-4-18

設立年月日 : 1958 年 3 月

主な事業の内容 : 電源装置の開発・製造・販売

◆本リリースに関するお問い合わせ

株式会社 YAMABISHI 東京営業所 Tel : 03-3767-8861 mail:y-sales@yamabishi.co.jp